

## 第9回IFNEC執行委員会

「共同声明」（仮訳）

2018年11月15日

日本国東京

IFNEC執行委員会は、2018年11月15日、日本国東京において、年次会合を開催した。メンバー国16か国、オブザーバー国5か国、国際機関4機関の大臣並びに代表高官が一同に会し、IFNECの取り組む課題について議論するとともに、本年の議長国である日本政府に対し、深甚なる謝意を表明した。月曜日の「安全と安全文化」をテーマとした作業部会の会合から始まり、運営グループ会合の他、「エネルギー遷移の中における原子力の役割」をテーマとしたコンファランスを開催したが、同会合は130名を越える参加者を得た。コンファランスは、IFNECとNICE Future（クリーンエネルギー大臣会合による創設）により共同開催された。執行委員会は、両者の協力が、クリーンエネルギーの中における原子力の役割を論ずる上で、相互補完的な役割を果たすことを期待して、NICE Futureの協力を望んだものである。

執行委員会は、原子力が、信頼性があり、強靱、安全、クリーン、かつ、長期的な電力供給源として、重要な役割を果たし、また、果たし得ることを認めるとともに、クリーンエネルギーの中に統合された形で相乗効果を生み出すのみならず、原子炉・核燃料サイクル技術のイノベーションにより果たす役割の可能性についても認識している。執行委員会は、厳しい電力市場における原子力の費用効果の改善、投資誘引の必要性をも認める。執行委員会は、原子力産業の全分野にわたって、最高水準のセキュリティと核不拡散の期待に応えるため、原子力の安全文化を維持する必要性を認め、また、核燃料サイクルのバックエンド問題について、安全で費用効果のある解決策を探究し、実行する必要性を認める。

IFNECの会議体は、このような問題に対する提案、議論、協力の場を提供する。執行委員会は、ステークホルダーが、議論と分析を深め、様々な課題に斬新な解方法を提供するため、メンバー国、オブザーバー機関が、情報を共有し、教訓を活かし、議題が重複することなく相乗効果を高め、相互に利する方法で、引き続き、協力することを望む。

執行委員会は、核燃料サイクルにおけるバックエンド問題のみならず、基盤整備に関する問題等、現在、作業部会が取り組んでいる問題について、支持を表明する。

執行委員会は、2017年末に開催した洞察に満ちたコンファランスの功績、また、その成果を2018年に「サプライチェーンとローカライゼーション」に関する報告として結実させた需給国関係作業部会の功績を評価する。更に、同部会が、原子力における「安全と安全文化」を確立するため、供給国・導入国双方が果たす役割と責任をテーマとして行った活動を評価するとともに、同グループの共同議長であるグロッシ大使、進藤秀夫氏、佐藤文一氏のリーダーシップを評価する。以上の成果を踏まえ、執行委員会は、当作業部会を常設の作業部会として設置することを認め、今後一層の活躍を期待する。

執行委員会は、2018年5月パリで開催された「規制機関の直面する新たな課題」に関するワークショップの功績、また、今期、東京において需給国関係部会と共同開催された「安全と安全文化」に関するワークショップの功績について、基盤整備部作業部会の共同議長バカート氏、マチソン氏の功績を評価する。委員会は、また、本年5月に共同議長の職を辞したジョン・マチソン氏の多年の貢献に謝意を表す。

執行委員会は、燃料供給サービス作業部会の共同議長シーン・タイソン氏及びトーマス・ザガー氏が、同部会の参加国を19か国、国際機関を3機関として確立したこと、多国間処理に関する融資策探究のためのワークショップを企画した功績を評価する。同ワークショップは、2018年12月11日パリにおいて、NEA主催で開催される。同作業部会が、引き続き、核燃料サイクルにおけるバックエンド問題に取り組むことを期待する。

執行委員会は、引き続き、IFNEC、IAEA、NEA、GIF間の協力関係を維持することを望む。

執行委員会は、IFNECの各作業部会の役割と責任を明確化したガバナンス（運用規約）の改正を承認するとともに、前運営グループ議長エド・マクギネス氏から議長職を引き継いだフリアン・ガダノ議長（アルゼンチン）のリーダーシップに深甚なる謝意を表す。委員会は、また、佐藤文一氏（日本）を運営グループの副議長として新たに迎え、コリン・ジュマ氏（ケニヤ）、ウラジミール・アルチシュク氏（露国）、スザンヌ・ジャヴォロヴスキー女史（米国）を新副議長として承認するとともに、前副議長アン・ライザーシュリー女史及び進藤秀夫氏の前議長エド・マクギネス氏及び現議長フリアン・ガダノ氏に対する補佐に謝意を表す。

執行委員会は、IFNECの事務局としてNEAが行った作業部会、運営グループ、その他IFNECのイベントに対する専門的な支援に感謝するとともに、NEA事務局長ウィリアム・マグウッド氏及び同事務局スタッフに謝意を表す。委員会は、改めて、IFNEC参加国に対し、IFNECが今後の活動を継続するために必要な資金の提供を請う。

執行委員会は、IFNECの活動と働きかけが最大の効果を発揮できるような課題に取り組むため、メンバー相互の更なる対話を期待する。本精神に基づき、執行委員会は、IFNECの全メンバー国及びオブザーバー国が共通の土台に立って、2018年12月11日パリで開催される多国間処理のファイナンスに関するワークショップ、2019年上半期に中国が開催を提案している需給国関係会合、2019年11月米国で開催を予定している次期執行委員会等、今後のIFNECの活動に積極的に参加することを期待する。